
今月の視点—操業停止と能力削減は別物なのだが…

経済調査部 齋藤 尚登

2016 年に入って、中国の鉄鋼価格が乱高下している。

2011 年夏には 1 トン当たり 5,000 元を超えていた鉄鋼（鉄筋）価格は、景気減速による需要減退に伴い下落。2015 年末には 2,000 元を割り込んだ。2015 年は粗鋼生産能力 12 億トンに対して、生産は 8 億トン（国内向け 7 億トン、輸出向け 1 億トン）にとどまり、過剰生産能力の削減が政策課題の一つとなっていた。こうしたなか、2016 年 2 月には国務院が鉄鋼の過剰生産能力削減に関する意見を発表し、今後 5 年で 1 億トン～1.5 億トンの過剰生産能力を削減するとした。

現地ヒアリングによると、今後 5 年は生産能力を増やす新規投資は原則認めない方針が打ち出されたほか、生産能力削減に対するインセンティブが付与されるなど、今回の中央政府の本気度は高いとされている。

中央財政は 5 年間で 1,000 億元の特別奨励・補助資金を拠出し、過剰生産能力の解消に取り組む企業の従業員の再配置・再就職支援に重点的に充てるとしたが、財政部が発表した実施細則では、過剰生産能力をより早くより多く削減すると、より多くの特別奨励・補助資金が得られるといったインセンティブを地方政府に与えている。このため、地方政府の反応も早く、鉄鋼の一大生産拠点である河北省は、3 億トンの生産能力のうち 1 億トンを削減する意向を示している。河北省だけで 5 年間の最低削減目標が達成される計算である。

生産能力削減で需給がタイト化するとの思惑や、不動産開発投資の底打ち・反転などの好材料もあり（粗鋼生産は 1 月～3 月の前年同期比 3.2%減から 4 月には前年同月比 0.5%増へと改善）、2 月以降、鉄鋼価格は大きく上昇した。鉄鋼価格は 4 月 26 日には 3,150 元の高値を付け、年初来で 57.4%の上昇を記録した。

しかし、その後、鉄鋼価格は反落し、5 月 24 日は 2,345 元と年初からは 17.2%高、高値からは 25.6%安の水準にある。行きすぎた価格上昇の反動に加え、操業を停止していた鉄鋼メーカーが、4 月下旬までの価格上昇を受けて相次いで生産を再開したこともある。河北省のある鉄鋼メーカーは業績不振で電気代を支払うことができずに、昨年 11 月以降操業停止を余儀なくされたが、この 4 月に操業を再開したという。ゾンビ企業の復活である。

当たり前のことだが、操業停止と生産能力削減は別物である。中国では少なくともこれまでは、これが曖昧だったところに過剰生産能力削減の難しさの一因があった。今回の政策では、実際に生産能力が削減されたかを第三者機関がチェックするとしているが、これが機能しなければ、市況が少し良くなると死んだふりをしていたゾンビ企業が復活し、生産能力の削減はままならないことになる。